

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 19年 12月 14日 開始 10時 40分 ~ 終了 16時 00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム のどか (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏名 浜田 千里 氏名 中村 朋美
事業所側対応者	職名 施設長 管理者 氏名 手塚 ゆき 中村敏子 ヒアリングを行った職員数 4名

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4673900173号		
法人名	コロブス(株)		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町求名13564番地 (電話)0996-57-1513		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4丁目2番6号		
訪問調査日	平成19年12月14日	評価確定日	平成20年 1月26日

【情報提供票より】(19年11月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 1月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 15.25 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋造り		
	1階建ての	~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または一日あたり 1,000円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	66 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さつま町立診療所(内・外科)・四位歯科・益寿医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四季の移り変わりを満喫できる環境の中に立地しているホームである。自然環境を活かした、田んぼ作りや菜園作りに勤しみながら、四季折々の草花や虫を觀賞し楽しみある生活がある。職員は入居者の思い、要望を可能な限りかなえてあげたいという思いを一つにして自己研鑽意欲を高く持ち、日々のケアに邁進している。地域の小学生が下校時に立ち寄り、入居者とふれあい、ボランティアなど多種多様な交流もあり、地域に根ざしたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念を説明文書に明記している。共用空間にソファや椅子が置かれて入居者の居場所を確保している。情報伝達や危険物の保管、管理等前回の改善課題は改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、職員は評価の意義を理解している。全員で自己評価に取り組み、改善課題について話し合い、サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの行事、入居者の日々の暮らしぶりや外部評価等の報告や説明をしている。災害時の協力体制の構築について具体的な取り組みを始める準備を行なっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来訪時や介護計画作成時に意見や要望を出してもらっている。家族等の会話の中で、得られた意見や要望等はミーティングで話し合い運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の敬老会や行事に参加している。公民館で開催される体操教室、交通安全教室にも参加している。学校帰りの子供達が立ち寄ってくれたり、ハーモニカや三味線、踊りなどのボランティア訪問もあり、交流も行なわれている。</p>

2. 調査報告書

主任調査員 中村朋美 / 調査員 浜田 千里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は人間関係を大切にし、その人らしく暮らせる事を重視した理念であり、ケアに活かしているが地域密着型サービスの役割を理解した理念の盛り込みには至っていない。	○	地域密着型サービスという新しいグループホームの位置づけに即した理念を作成することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・事業所に掲示している。職員採用時に理念を伝えて共有に努め、申し送り時に唱和している。又、カンファレンス時や勉強会の折に理念を浸透させて、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員との連携のなか、地域の公民館で開催される体操教室、交通安全教室や、集落の伝統行事の見学、地域の文化祭、農業祭の見学、小学生との交流など地元の人々と交流することに努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解している。自己評価は、職員一人ひとり評価を行い、それをもとに職員で話し合っ取りまとめている。前回の評価を活かし、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の個々の生活情報や外部評価の報告など行われている。職員の健康管理や、介護のあり方などの意見を活かすよう、日々取り組んでいる。		

グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に事業所の取り組み内容や医療費、障害者手帳等の相談をしながら関係作りを積極的に行い、協力関係を構築している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの配布と家族等の来訪時に日々の暮らしぶりや身体状況を報告している。遠方の家族には手紙や電話で居室担当者が報告し、金銭管理は出納帳の写しで報告し確認印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時や介護計画作成時に意見や要望を出してもらっている。家族等の会話の中で得られた意見や要望等はミーティングで話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応する事の重要さを理解している。やむをえない異動の折には一定期間リーダーによる研修を行い、利用者の不安がないように取り組んでいる。又、居室担当者は決められているが、全入居者に関わる体制づくりになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は資格や経験を考慮し、職員が交代で参加して研修報告を行い、共有できている。毎月内部研修も行っており職員の技術や知識の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの相互訪問や一日体験など、互いにサービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		

グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に自宅や病院などに行き、本人や家族と面談している。状況に応じて見学やお茶など飲んでもらい、少しずつ馴染みの関係を作り、入居者、家族が安心してサービスを利用できるようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者からつるし柿やお手玉作り、田んぼの苗植えなどを学び、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や家族等の面会時に思いや意向を聞いている。又、日々の暮らしの中で利用者の表情や言動で察知するように努めたり、ジェスチャーで対応するなど本人の気持ちを大切にしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや生活歴を把握し、利用者・家族等の要望を聞き、ミーティングや担当者会議で意見交換を行って、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度は介護計画を見直し、評価を行い介護計画に活かしている。状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。		

グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間健康管理と医療連携体制が出来ている。又、病院受診、墓参り、友人との外出の支援など家族の希望や状況に応じて柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医の受診を支援している。受診後の報告も家族にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する指針を定めており、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行なっている。家族との同意書もあり、職員は重度化に対応する勉強会をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう、日常の関わり時やミーティングの折に職員の意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・入浴時間・散歩・外出・食事の嗜好など一人ひとりの思いやペースを大切にしながら、職員は柔軟に対応している。		

グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や状況に応じて、調理の下準備など職員と共に行い、共に同じテーブルで楽しく食事ができるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や回数など決まりはなく、入居者の希望や体調に留意し、楽しく入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、きのこ木作り、つるし柿、干し大根、カレンダー作り等の他、エレクトーンやハーモニカ演奏、ゲートボールなど利用者の趣味や特技を発揮できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物の他、友人との食事や外出、地域のサロンへ出かけるなど、日常的に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアを心がけており、本人のプライバシーに配慮しながら、様子や言動をきめ細かく見守り、自由な暮らしが出来るように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、消火器の使用方法や避難経路の確認など入居者とともにやっている。夜間想定や地域住民参加の災害訓練は行われていない。台風時などは、食材や水の確保を行っている。	○	地域住民の協力が得られるよう働きかけることが望まれる。

グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士のアドバイスをもとに献立を作っている。水分摂取量、食事摂取量を記録し、一人ひとりの状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は全体的に明るく温かみがある。家庭的なソファや家具が置かれている。趣味のエレクトーンや季節行事の工作物を飾るなど居心地良く過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、洋服かけ、テーブル、椅子等使い慣れた馴染みの物が持ち込まれている。又、身体状況に合わせて、和室、洋室を選んでもらい、その人らしく安心して過ごせる配慮がなされている。		